

季刊

Midorino
Rehabilitation
Hospital

みどり野



病棟にて 夏のイベント

CONTENTS

- 2P 訪問リハビリ特集～スタッフ増員～
- 3P 大和市地域支援事業
- 4P 特集～私の趣味～VOL.2
- 5P 加瀬医師の初期臨床研修
- 6P 特集～ステイホームの過ごし方～VOL.1
- 7P マルちゃんの独り言^⑭
- 8P 医療連携室
病院までのアクセス

vol.
30



医療法人社団 神奈川巨樹の会

みどり野リハビリテーション病院

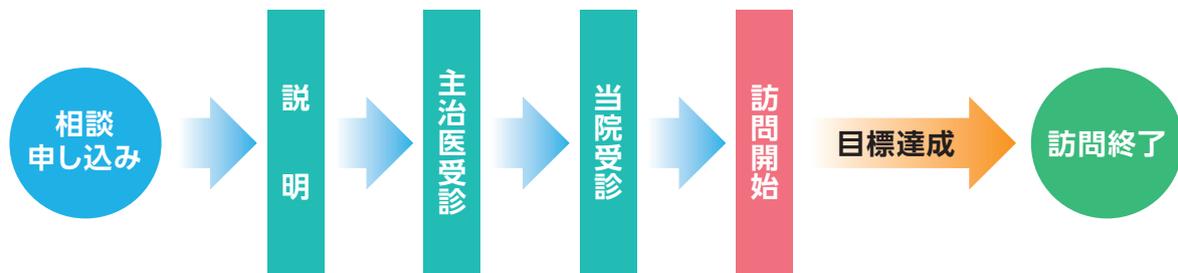
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間2丁目6-17

<http://www.midorino-hp.jp>

訪問リハビリスタッフ増員しました



7月末現在、理学療法士10名・作業療法士2名・言語聴覚士1名の総勢13名体制となり、ご利用いただける地域も拡大しました。



登録エリア

- ・大和市
 - ・綾瀬市
 - ・町田市
 - ・横浜市
 - ・座間市
 - ・海老名市
 - ・相模原市
 - ・厚木市
- (一部登録エリア)

ご不明点やご相談がありましたら
お気軽に訪問リハビリ担当者まで
お問い合わせください。

TEL:046-271-1221

大和市地域支援事業について

少子高齢化が進むなか、今現在国民の約3人に1人が高齢者であり、2050年には国民の4割が高齢者となることが推定されています。また高齢化に伴い生活機能の低下だけでなく、有病率の上昇、転倒、認知機能の低下など様々な問題が高齢者の介護や支援を必要とする要因であり、社会問題の1つとなっています。

これからの人生100年時代を見据え、いつまでもいきいきとした快活な自立生活を送るためには、怪我や病気になってから考えるのではなく、怪我や病気をする前に「予防」をするが大切になります。

また身体が健康であることはもちろんのこと、生きがいや社会参加、社会貢献、多世代交流などの住民活力を生む地域全体が高齢者を支える取り組みが重要となります。そのため、従来の健康増進につながる個々人が行う運動だけでなく、高齢者が参加しやすい活動の場の拡大や活性化も求められています。

そのためリハビリテーション科地域支援事業班では当院の掲げる基本方針の一つである地域医療の一環として、大和市から事業委託を受けて地域支援事業を行っています。地域支援事業の取り組みとして介護予防を目的に自主活動をおこなっている地域高齢者の通いの場に伺い、適切な運動の指導や助言を行い、地域高齢者運営の通いの場の活性化や、認知症予防教室を開催し地域高齢者に認知症に対する正しい知識や運動を身に付けて頂き認知症予防を実践出来るようにご支援をさせて頂いています。

今後も大和市と協働し地域高齢者の健康寿命の延伸や地域活性に繋がるように地域医療・介護予防に努めていきたいと思っております。

事業内容

- ① 専門職派遣事業
地域高齢者のかよいの場に伺い、健康講話等を行う
年間30～60件実施
- ② 認知症予防(コグニサイズ)教室
認知症予防の取り組みを実践できるように支援
週1回5か月間を1クールとした継続した教室の運営
- ③ 認知症予防セミナー
認知症予防の普及啓発を目的としたセミナーの開講
年間3～5回実施



リハビリテーション科 地域支援事業班
理学療法士 長内 祥太郎



私の趣味

VOL.2

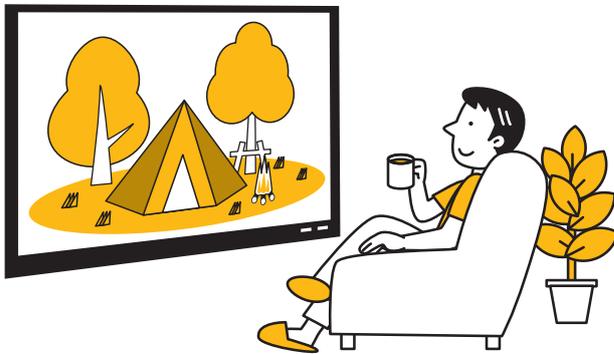


現在、COVID-19が蔓延しており、大人数での会食などは感染の可能性があるため、避けている人が多いのではないのでしょうか。僕の休日は1人で出来る趣味活動としてドライブをするようになりました。時には同期と別々の自動車で出かけ、接触せずに帰路に着いています。対面した状態での大人数の会食や皆様の趣味活動が楽しめるように、いち早い終息を願い、自分のできることをやっていきたいと思います。

リハビリテーション科 野田



動画サービスが生活に身近なものとなりました。映画、ドラマ、アニメ、筋トレ、美容、料理、癒し、笑い、バーチャル旅行、語学や講義形式の動画など幅広いジャンルのコンテンツが



あり、気軽に新しい刺激を受けることができます。ブッシュクラフトという、必要最低限の荷物で自然にあるものを利用したアウトドア動画がお気に入りです。オン・オフの切り替えを大切にして、今の厳しい状況を乗り越えたいと思います。

A病棟 中村

テキテキテキ・・・父が愛用していたオーディオセットから良く聞こえていたベンチャーズサウンド。子供心ながら確かなテクニックとセンスに格好良さを感じ、私の趣味である音楽鑑賞の原点です。

音色はいつまでも色あせず、そして聞くシチュエーションにより色々な色に染まるのがインストルメンタルの魅力。音楽の語源は「音を楽しむ」であり、心と体を癒す音楽がもたらす効果は大きいです。コロナ禍の昨今、今後も様々な困難をサポートしてくれることを願っています。

医事課 大貫



1ヶ月の研修を終えて

回復期リハに興味を持ち、この度1ヶ月、みどり野リハビリテーション病院で学ぶ機会を頂きました。

研修を通して急性期病院との違いに気付きました。患者様が着ているのはパジャマではなくジャージ、リハがぎっしりと組まれているスケジュール、そして患者様の積極的な姿勢が印象的でした。

薬や手術といった治療は、患者様が治療を受ける側となるため、受け身の姿勢でも進んでいきますが、リハビリは自分で動こうとしなければ始まりません。“良くなりたい”という気持ちとそれに応えるスタッフの技術・知識があって初めてリハビリが行えるのだと思いました。

また、入院期間は2ヶ月以上と長く必要な場合が多く、コロナ禍で面会制限もあり、常にモチベーションを維持するのは大変なことです。

そのために、ただ漠然と訓練をするのではなく、療法士さんがその都度評価・フィードバックすることで、何を目的に訓練しているのか、先週と比較して何ができるようになったのかがわかりやすく、モチベーションが保ちやすくなる仕組みがありました。また、リハビリで増えた“できること”を実生活でも“できること”に落とし込むためには、看護師さんによる病棟での評価・適切な介入が必要なのだ実感しました。

ある患者様が「疲れる日もあるけど、療法士さんや看護師さんが一生懸命してくれるから自分も頑張らなきゃ」とお話をされていたのが印象に残ってます。

この場をお借りして、快く研修を受け入れて下さった院長先生はじめ、みどり野リハビリテーション病院の皆様にご心より感謝申し上げます。今回得られた経験を今後の診療に役立てていきます。

加瀬 芳衣

総務課からコメント

今回は2年目の初期臨床研修。医師だけでなく看護師やリハビリスタッフの業務について学んでいただきました。患者様と真剣な表情で向き合っている姿が印象的でした。





STAY HOME

～ステイホームの過ごし方～ VOL.1

ワクチン接種前に厚木の毛利氏発祥の地(写真①)を訪れて大江広元・季光親子に思いを馳せ、帰りに荻野新宿の鴨汁そばにも大満足。免疫ができれば飲みに行けると期待していましたが町はまだ受け入れず、家飲みしながらジャズを聴いて読書。テレビは鑑定団とチョコちゃんとスポーツですが、これ以外で面白くない、くだらない番組には大声で文句を言って眠っています。これでは身体に悪いので偽ビールに替えてストレッチと腕立てをやっています。休日の朝はドライブスルーで仕入れたソーセージ・エッグマフィン在家中でコーヒーのお供に撮ってから近所を散歩(写真②)。それと料理はスパゲッティから始め、クックパッドと家内の指南のお陰で煮魚までレベルアップしました。

医局 秋丸



写真①



写真②

私が気に入っているステイホームの過ごし方は、ネイル(ペディキュア)をすることです。コロナ禍ではサロンにもなかなか行けず、何かいいものはないかと探していたところ、oharaというジェルネイルシールを見つけました。ジェルを使用したぶつから感のあるシールで、デザインや色もたくさんあります。爪に貼り、大きさに合わせて余分な部分を爪切りや手で切り、専用のライトで固めるだけで完成です。

サロンでプロにしてもらうくらい可愛く金額も遥かに安いので気に入っています。

連携室 蓮田



マルちゃんの独り言



海賊の眼帯

海賊船の船長といえば、片眼に眼帯をしているのが、お決まりのイメージようになっていますね。

映画のパイレーツ・オブ・カリビアンのスパロウ船長は、眼帯をしていませんでしたが……。

私は、海賊の船長なんだから、乗っ取った船の船員との戦いで、眼に負傷を負い、失明し、片目になったのかなと、思っていました。異なる意見もあるようです。

それは、中には眼に負傷をして片目の船長もいるかもしれませんが、両眼視ができる場合も、意図的に片側の眼を、眼帯で覆っていたそうです。

海賊は船上で生活していますが、昔は船の中の照明は今ほど明るくなかったそうです。

人間の眼は急に明るい場所から暗い場所に行くと、すぐに対応することができないため、船を襲撃するときや、襲撃されたときの戦闘時に船内に入る際に、眼が慣れるまでほとんど見えない状態に、なってしまいます。

そこで外にいる際は片眼に眼帯をすることによって、眼帯で隠された眼は暗闇に慣れさせることができます。

そして暗闇に入ったタイミングで、もう片方の眼にずらすことで、暗闇の中でもすぐによく見えるようになるそうです。

つまり海賊が眼帯をしているのは、暗闇でもすぐに順応できるようにする実用的な理由が、あったそうです。



医療連携室

医療連携室では、現在7名体制(看護師1名、ソーシャルワーカー6名)で患者様のサポートをさせていただいております。

患者様やご家族様より入退院に関わるご相談をお伺いし、解決に向けてお手伝いいたします。

ご不明な点がございましたら、いつでもお気軽にご相談ください。



相談窓口／1階受付

受付時間／9:00～17:00(月曜日～土曜日)

みどり野リハビリテーション病院 医療連携室
(代表) TEL 046-271-1221 FAX 046-271-1220



みどり野リハビリテーション病院 広報誌

季刊みどり野 vol. 30

企画発行

みどり野リハビリテーション病院
広報委員会

〒242-0007
神奈川県大和市中央林間2丁目6-17
TEL 046-271-1221(代表)
FAX 046-271-1220



ホームページはココ